献　　辞

熊谷次紘先生は，2013年３月末をもって本学を定年退職されました。先生の長年にわたるご貢献に対し，感謝を込めて本号を先生の退職記念号としてお贈りいたします。

熊谷先生は，1976年広島大学大学院文学研究科英語学英文学専攻を修了され，同年４月本学商学部専任講師（英語担当）として赴任されました。長年にわたり，本学の教育・研究・運営に当たってこられましたが，1990年から教務部次長と一般教育運営委員会委員長を４年間，2002年から国際交流センター長を４年間と重責を果たされました。その間，英国のウェストミンスター大学への商学部学生派遣プログラムを発足され，国際交流センター長をされていた時には，本学とケント州立大学（米国），アリゾナ州立大学（米国），啓明大学（韓国），ニューカッスル・アポン・タイン大学（英国）との間での新規交流プログラムを発足されました。本学の国際交流プログラムが現在まで発展したのも熊谷先生の尽力によるところが大きいことは言うまでもありません。特に，商学部の学生が多数，ロンドンのウェストミンスター大学へ夏休みに短期留学することが出来たのも先生の熱心な学生への働きかけのおかげです。またビジネスに関連した訪問先もプログラムに盛り込んでいただいたことは，商学部の学生にとって有益でありがたいことでした。

先生の専門はシェイクスピア研究であります。1983年から1984年まで英国バーミンガム大学シェイクスピア研究所にて在外研究をされ，2006年から2007年まで米国ワシントン D. C. にあるフォルジャー・シェイク

スピア・ライブラリ特別研究員と英国バーミンガム大学シェイクスピア研究所客員研究員をされて，シェイクスピア研究がさらに進展されました。この間，シェイクスピアに関する多数の論文を発表され，多数の学会報告もされています。その成果が結実したのが，先生がまとめられた著書『愛，裏切り，美しい人生―シェイクスピアの心―』溪水社（広島修道大学学術選書45），2009年発行です。476ページに及ぶ大著であるこの著書では，「はじめに」のところで，「シェイクスピア劇の中から，三つの円熟期の大悲劇と，初期から中期にかけての二つの喜劇を選んで，その主題，イメージと言葉，原話との比較などを通して解きほぐし，そこに描かれている愛と人生の模様，そしてその意味についての解明を試みたものである。」と述べられています。また，「本書では一六世紀から一九世紀にかけての古い資料に数多く言及しているが，それらは大部分米国ワシントン D. C. のフォルジャー・シェイクスピア・ライブラリと，英国ストラットフォードのシェイクスピア研究所で，直接一次資料を参照したものである。」と述べられ，在外研究の成果を著書として結実させておられることがわかります。

定年退職されましたが，現在も非常勤講師として本学に勤務され，お元気な姿をお見かけします。また，2012年 4 月からは，NHK 文化センター広島教室にて講座「シェイクスピア　～悲劇と喜劇を楽しむ～」の講師もご担当なさっています。この教室では，熱心な年配の方も受講されているようで，先生も楽しみにされているとのことでした。ご自分が長年研究されてきたことを一般社会の方にも還元されるという理想的な研究・教育生活をされているようでうらやましくもあります。

どうかご健康に十分留意され，今後とも一層のご活躍を心から期待す

るとともに，あわせて私たちに対する更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げて，献辞とさせていただきます。

2013年 9 月 1 日

広島修道大学商学部長　　米　田　邦　彦